愛知教育大学附属高等学校研究紀要第44号
pp.81～93（March, 2017）

『英語表現』指導の提案集

―より効果的なインプット・アウトプットを模索して―

外国語（英語）科　加古久光、川上佳則、鈴木隆弘、平岩加寿子、福西広子、山口　誠

口頭にせよ紙面上にせよ、どのようにアウトプットさせていくかというのが「英語表現」という科目の最終的な目標となることは言うまでもないことであるが、その前段階としてのインプットをいかに効果的に行うか、そしてインプットされたものをいかに効果的にアウトプットにつなげていくかというのが、日々英語科教員が腐心するところである。今回のシンポジウムではそのための方策のうちのいくつかを日頃の模索的な経験の中からひろい上げ、提示した。

＜キーワード＞発見・気づき　“内容”の伝達　問題解決　段階的指導

１．はじめに―この研究実践がめざすもの―

「英語の授業は英語で行うことを基本とする」旨の学習指導要領は当初はセンセーショナルな受け止め方をされたものの、特に「コミュニケーション英語」においては、ハンドアウト等をふんだんに使用しながらその趣旨に沿った方法論も定着しつつあり、見慣れた日常になってきている感がある。本校では教育実習においてもそのような授業を推奨し、無理なく実現もしている。

そんな中、「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす」という目標を持つ「英語表現」において、自分の考えをまとめ、適切な英語表現を用いて文章にし、さらにそれを発表できるようにするためには、実際にどのような段階を踏まえて指導をしていかなければならないかについて、日々心を砕くところでもある。まずは「正しい」英文を組み立てるための知識も必要である。それができるようになれば、今度は一つ一つの文をつなげて文章にする作業が必要である。さらには内容の流れについて推敲できる力が必要となり、そのようにしてできた文章をより効果的に相手に伝えられるような発表力も必要となる。

３年間を見据えたビジョンの中で上記を実現しようという本校の模索の過程を、「明日からでも役立つ」比較的平易な提案集としてまとめてみた次第である。お断りしておかなければならないのは、今回の原稿および授業は、特に理論的な authority をもととしてその直接的な実現を試みたものでこそないが、practical なアプローチによる「生徒個々」の変容に関する記述の端緒になればという願いを出発点とし、そのために、我々英語科教員が積み重ねてきた経験と実践をまとめたものである。

２．シンポジウムでの3つの授業実践例

（１）生徒自身による調べ学習と３つのＲ（reply, repeat and realize）をサイクルにした授業実践

新課程になりずいぶん経つが、授業を進める中で求められる基本的な英文法の知識・理解を活動の中でどのように育成するべきか、現在もなお、悩ましい課題である。

本実践では、英語表現Ⅰについて、授業に先立つ家庭学習において英文法の内容を自らまとめ、理解に取り組む状況を設定する。そしてそのようにしてまとめたものを発表し合うことによって、文法学習の導入部を「英語の使用にこだわらない生徒間の言語活動」に置き換えようとするものである。

また、これに続いて、ペア・ダイアローグ活動をベースとして、所定の文法形式に則ったシンプルな繰り返しの言語活動を行い、同時に会話のリアリティーをも実感し、なおかつ話者の感情や思考が表現されるように活動を発展させるような設定や仕掛けを考える。

（２）英文法の理解と応用―気づきからコミュニケーションへの発展にむけて―

どのようにしたら生徒はそれぞれの文法規則の成り立ちに気づき、それを自分の身の回りのことを含めた「伝えたい内容」の表現に役立つツールとして発展させていけるのかについて、段階的な指導を試みる。

（３）英語ライティングの Peer Review―アクティブ・ラーニングの一形態として―

学習指導要領の英語表現Ⅱでは、「言語活動を効果的に行うために、書いた内容を読み返し推敲することを指導するよう配慮するものとする」（２内容（２）イ）と述べられている。これに関して、本実践では、Peer Review（相互評価）という手法を用いて、グループ内でともに意見を出し合い文章を推敲していくことにする。クラスメイトの作文に目を通し、その文法・表現・内容について積極的に関わり合う活動を通して、英語に対する理解を一層深め、よりよいアウトプットを目指すねらいである。

３．実践提案集

上記の研究授業以外の日常的な場面でも、様々な手法を用いて授業を行っている。以下に提案集としてまとめておく。

１　高校英語導入期における英文法の調べ学習―「発見・気づき」―
２　例文暗記から自由英作文へ―“内容”を伝えるために―
３　場面設定トレーニング―文法知識は現実場面の問題解決のツールとして―
４　英文と日本文の違いへの気づき―英作文の障壁を取り除く試み―
５　ミニ・プレゼンテーション―心理的負担を減らして多くの回数を―
６　教科書の内容を用いた「インプット、のちアウトプット、ときどき応用」
７　クラスメイトの作文に興味津々―Peer Review によるリライティングの試み―

提案１：高校英語導入期における英文法の調べ学習―「発見・気づき」―

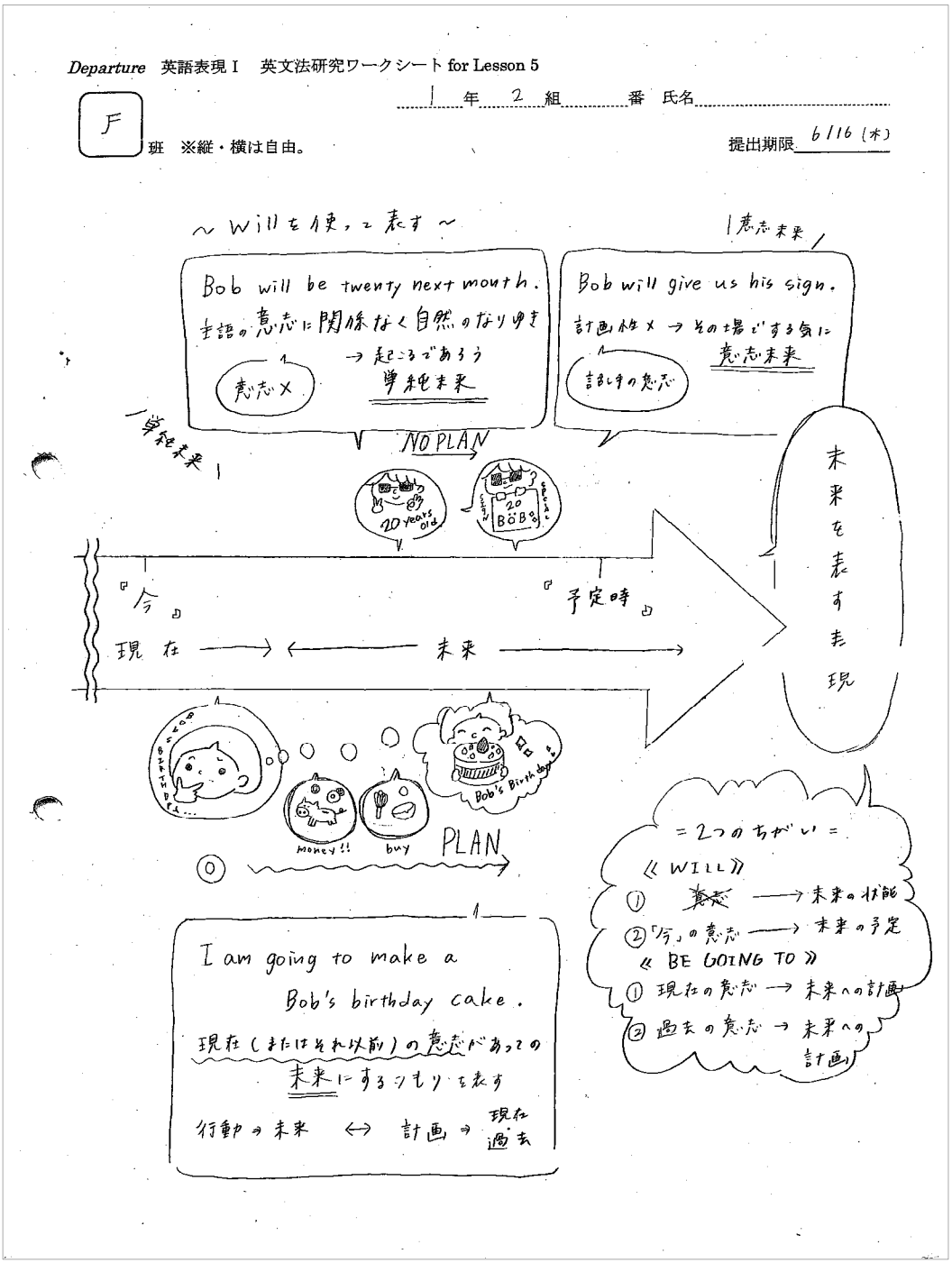
英文を組み立てるための知識としての文法は、やはりどこかで明示的な形であるにせよ、扱う必要があろう。ただ、文法そのものが目的化しないように注意する必要があり、なおかつ伝えたいことを伝えるための「ツールとしての文法」を、できれば自ら理解しようとする機会も設けたい。文法指導といえば教員がまず説明するイメージがあるが、生徒自らが関心を持って参考書等にあたり、自ら発見できるようなプロセスを授業の前段として設定し、授業においてその成果が確認できるような手順を整える必要がある。そのために、下に示すような簡単なハンドアウトを事前に準備し、家庭において各自が調べ､学校ではグループ内で互いに発表し合う。このような自ら発見しまとめてゆく作業は、その後の学習全般の基本的態度としても重要ではないかと思われるのである。

この活動をしてみた後のアンケート結果を載せておく。ちなみに第１学年で使用する文法参考書『総合英語 Forest[7th Edition]』（桐原書店）を用いている。

Departure　英語表現Ⅰ　英文法研究ワークシート for Lesson 8　受動態

＿＿＿年＿＿＿組＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿

□班　※縦・横は自由。　　提出期限　9/7(昼)



Departure　英語表現Ⅰ　英文法研究ワークシート for Lesson 5

1年 2組＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿

F班　※縦・横は自由。　　提出期限 6/16(木)

～ Willを使って表す ～

Bob will be twenty next month.
主語の意志に関係なく自然のなりゆき
→ 起こるであろう
意志×　単純未来

Bob will give us his sign.
計画性× → その場でする気に
意志未来
話しての意志

単純未来

NO PLAN

20 years old

20 BOBs

『今』　『予定時』

現在 ⟶ ⟵ 未来 ⟶

未来を表す表現

Bob's Birthday

money!!　buy　PLAN

I am going to make a Bob's birthday cake.
現在(またはそれ以前)の意志があっての未来にするつもりを表す
行動→未来 ↔ 計画→現在/過去

＝2つのちがい＝
《WILL》
① 意志 ⟶ 未来の推能
② 「今」の意志 ⟶ 未来の予定
《BE GOING TO》
① 現在の意志 → 未来への計画
② 過去の意志 → 未来への計画

提案２：例文暗記から自由英作文へ―“内容”を伝えるために―

一通り調べ学習をしたとはいえ、生徒によってはこの段階での文法そのものについての理解はまだまだ不十分で、ましてや習得した文法が自己表現に役立つという実感も薄い。そこでまず基本例文の定着を図り、それが自然に発話できるようになって、ある程度慣れてきたところで、今度はそれを使って身の回りのことを表現するために用いるという段階的な指導を行うことにする。最初は機械的な作業になってしまうが、目標はあくまでも構文を使用しての自己表現である。

Departure の各レッスン最初のページには “Expressions” というパートがあり、当該レッスンの文法事項がまとめられている。以下は９月２日（金）に Lesson 7 Food and Health を扱った際の手順である。当該箇所には次の５つの文が挙げられている。Lesson 6 に引き続いて助動詞の内容である。

１）I used to be a night person, and I would often feel tired during the day.
２）I feel sick. I may have caught a cold.
３）Kazuaki looks sleepy. He must have stayed up late last night.
４）I should have been more careful about my health.
５）Would you buy some sugarless drinks for me?

（１）例文暗記はペアワークで行うことが多いが、以下のような手順で行うことが多い。
① 例文１）を１分で暗記
② ペアでじゃんけん。勝った方が日本語訳を読み上げ、負けた方が暗記した英文を話す。これを３回戦行う。済んだペアは着席し、次の文の暗記に取りかかる。
③ ②のプロセスで５つの文が終わったところで、今度は勝った方がランダムに文を選んで日本語訳を読み上げ。負けた方は英文を話す。これも３回戦行う。

（２）こうして一通り例文を習得した後、下のようなハンドアウトを用いて、ペアでどんな内容でもよいので、覚えた構文のパターンで文を作らせる。当初は５分ほどを予定していたが、たとえ１文でも推敲するのに時間を要し、結果的に15分ほどになった。

TASK ① 現在の様子(目の前の現象)と、そこから推測される過去の事柄について自由に書いてみよう。 TASK ② 現在の様子と、それについて後悔・反省していることを書いてみよう。 ペアの名前： ex. Team Departure

（３）作った文を板書させる。黒板には奇数番のペアは TASK ①の文、偶数番のペアは TASK ②の文を書く。①と②を合わせてペアの数だけの文が並ぶことになる。

生徒が板書したものを以下に載せておく。文法的な誤りも散見されるが、「助動詞＋ have ＋過去分詞」に関わる部分以外は、あまり細かく訂正せずに内容面に注目し、関心を向けさせた。

① Mr. Yamaguchi wears glasses. He must have done without glasses when he was young.
② Mr. Yamaguchi wears glasses. He should have been more careful about his eyes.

（Team 元富士中！）

① He looks sad. He must have forgot money.
② I should have done my homework earlier.

（Team sky blue）

① Kento is very cool. He must have been popular with girls when he was young.
② I feel strongly these days that I should have studied much harder.

（Team Roast beef）

① I'm worried. I may have forgot to lock a door.
② I bought a strawberry layer cake. But I should have bought a tart.

（Team notebook）

① She has lost her keys. The keys may have fallen out of her pocket.
② I was late. I should have got up at six.

（Team pen No. 5）

① That couple looks happy. They must have had a baby.
② My test results are bad. I should have studied during the test week.

（Team 消しゴム）

① She has a beautiful face. She must have had plastic surgery.
② I got poor marks. I should have studied before test.

（Team GYM）

① The blackboard is written English. Before class must have been English class.
② I haven't finished my homework yet. I should have done more earlier my homework.

（Team シーサー）

① She looks happy. She must have won a live ticket.
② A robber came into my house. I should have locked the door.

（Team Ishikawa）

① I have no money. I may have consumed money.
② I should have been study summer vacation assignment step by step.

（Team マッチョ）

① He looks sad. Something bad may have happened to him.
② He looks sad. He should have been study more hard.

（Team 8）

① She looks happy. She must have finished her homework.
② My cat is fat. She should have walked more hard.

（Team Blue）

① He looks happy. He must have enjoyed party last night.
② I had not won a game. I should have practiced more.

（Team Chiryuppi）

① Mr. Yamaguchi is cool. He must have been popular with us.
② I'm very sleepy. I should have been more sleep/

（Team YAMAYAMA）

① I am sad. We may have broken heart yesterday.
② We broke up yesterday. I should have been more careful about herself.

（Team Poor Justin）

① The character is bad. I must have slept last class.
② I have a lot of homework. I should have chosen other class.

（Team Mizuki & Aska 13）

① I'm stomachache.（→ I have stomachache.） I may have eaten bad food.
② I can't answer this question. I should have studied hard.

（Team Sana and Kohei）

① Nara is cold. It must have snowed in Mt. Yoshino.
② I called teacher, but he didn't notice. I should have called big voice.

（Team Koshisuka）

****

（４）最後に教員に続いて全員で chorus reading をする。クラスメイトが考えた文を見ていくことは、後述する文章レベルでの Peer Review の第一歩としての位置づけもある。

提案３：場面設定トレーニング―文法知識は現実場面の問題解決のツールとして―

これはある場面を設定し、その場面に適切な発話として、学習した文法内容を使わせようとするものである。*Departure* の各レッスン２ページ目 "Get Ready to Express Yourself" の Challenge! のところにも「次のような場面で、あなたはどのように英語で話しますか」という問いがある。

場面設定トレーニングはそれをさらに発展させたものと考えてよい。以下に１例を挙げる。

Situation Training [完了形編]

Situation 01

あなたは期限までに宿題を終えられなかった。担当の先生に報告しなければならない。叱られるかもしれない。だが、提出はできなかったけれど、ここまで努力したことは、何とか伝えたい。自分は「やらなかった」わけでも「やりたくなかった」わけでもないから。Keywords: finish

Situation 02

友人から映画の誘いを受けたあなた。だが、その映画はすでに２回も観た作品だった。「さすがに３回目は勘弁して欲しい．．．」あなたは、どうしても断りたい。だけどできるだけ「それなら仕方ないね」と思って欲しいから、言い方を工夫しないと。Keywords: twice

Situation 03

その日、あなたはたまたま一番に帰宅した。帰宅すると、ダイニングテーブルの上には大きくかじ

られたケーキが。ひどいな、これ。ふと、横を見ると、口の周りにクリームをつけた飼い猫が悠然と歩いている。と、母帰宅。「おかえりー、ってあなた、なに人のケーキ食べてんのよ！！許さんぞ！」激怒する母。隠れる猫。なんとかこの怒りを収めるような説明をせねば、わたしに明日は、無い。
Keywords: when / the cat

また、Lesson 7 Food and Health においては「助動詞 + have + 過去分詞」が文法項目として挙がっているが、それに関しては以下のような問いかけをした。

---

① 友人と知立駅で待ち合わせをしているのに、なかなかやって来ない。
　友達の考えられる状況を推測して英文を作ってみよう。
② 友達が月曜日、とてもうれしそうに（or 悲しそうに）学校にやって来た。
　友達の考えられる状況を推測して英文を作ってみよう。

このような活動をする場合、ねらいとした構造の文がそのまま出てこないこともある。その際は文脈に合っている文であればよしとしながらも、「表現の選択肢の1つとしてこのような文も考えられる」というような説明が必要になろう。遠回りになることもあるが、その結論を急ぎすぎないよう注意が必要である。目標とする文を習得させたいだけであれば、最初からそのパターンの文の練習のみをすればよいことになるからである。それぞれの場面の問題解決のための文を考え出すというのがまず第一義であり、その際の文の選択は必然的に多様にならざるを得ない点は留意しておきたいところである。定期考査にこの種の問題を出題しようとしたときの困難点も、まさにこの点にあると言ってよいのである。

提案４：英文と日本文の違いへの気づき―英作文の障壁を取り除く試み―

英作文をさせる際、生徒は日本語の順序のまま英単語を並べてしまうことが多い。まずはごく基本的な文において、英文と日本文とでは何がどのように異なっているかに気づかせる作業も必要である。以下の例では、英語に直せるように日本文そのものを言い換える練習をし、その習慣づけをねらった第一歩のハンドアウトである。

なぜ私達は「言いたいこと」、「伝えたいこと」を英文に直せないのか

１　日本語を英語にしてみよう

例　（１）我が輩は猫である。（２）名前はまだない。

（１）……　（２）……

２　（２）の英作で困った人へ送る3つのルール

大前提：日本語をそのまま英語にしようとしてはいけない。というか、無理です。

ルール①　まずは、「ちゃんとした日本語の文」になるように、言葉を補う

※ちゃんとした日本語の文とは、「主語・動詞が明らかである日本語の文」のこと

「名前はまだない」

→誰が、何をするのか、省略無しでしっかり表す。　（２）

ルール②　「ちゃんとした日本語の文」を英語の語順に並べ替える

「私はまだ（私の）名前がない」

→「ちゃんとした日本語の文」をＳ（主語）＋Ｖ（動詞）＋その他　の語順に並べ替える。

※日本語で並べ替えること（２）

ここまでやったら、英語に直してみよう。

（２）

また、上の例以外でも、助動詞 used to について次のようなことも考えた。

「以前はよくしたが、今はしていないこと」について、その理由などもあわせて書いてみよう。

①＜日本語で＞

②　＜①を英語の語順にしてみよう＞

③＜英語で＞

提案５：ミニ・プレゼンテーション―心理的負担を減らして多くの回数を―

第１学年（Departure 使用）では、各レッスン最終ページ “Write on Your Own” の部分で、教科書の内容に従ってパラグラフを書かせ、それを基にしてプレゼンテーションを行っている。

生徒にとってはクラスメイトの前でプレゼンテーションを行うことは、とても緊張しハードルの高い活動である。そこで、“Get Ready to Write” でまずパラグラフを書く下準備の段階から６～７人のグループを作り、話し合いをしながら各自の内容をまとめ、自分がまとめようとしていることについての共通認識がグループの中で得られることによって、次のグループ内プレゼンへの抵抗感を減らすようにしている。

パラグラフが完成した後は、グループ内で着席したままミニプレゼンを行う。予めパラグラフの内容を暗記し、自らの言葉として（オーラル・インタプリテーションのように）述べることができることが目標であるが、現実には原稿を見ながらになることが多い。

次に各グループの中で１名を選び、代表としてクラス全体の前でプレゼンテーションを行う。

１学期の段階ではまだこのプレゼンテーションはパフォーマンステストの位置づけをするには至っていないが、２学期以降は何らかの形で評価に結びつけることも考えたい。本校で過去に用いた評価のワークシートは別紙のようである。

また、自分が書いたパラグラフについて、クラスメイトがチェックし、フィードバックする方法もある。以下がその形式である。

Lesson _____ **CLASS** ___ **No.** _____ **Name**_____

_____語

Name			
Topic Sentence			
Supporting Sentences			
Grammar			
Comments （日本語でよい）			

★ Topic Sentence　A：主題は明快である。
B：主題はもっと明快であった方がいい。
C：主題は全く何を言いたいのかわからない。

★ Supporting Sentences　A：支持文は十分に主題を支えていて、論理的に並んでいる。
（理由・事実・具体例などが入っていて納得できる）
B：支持文は主題を支えるには少し不十分である（半分くらい納得できる）
C：支持文は全く主題を支えていない。（これでは納得できない）

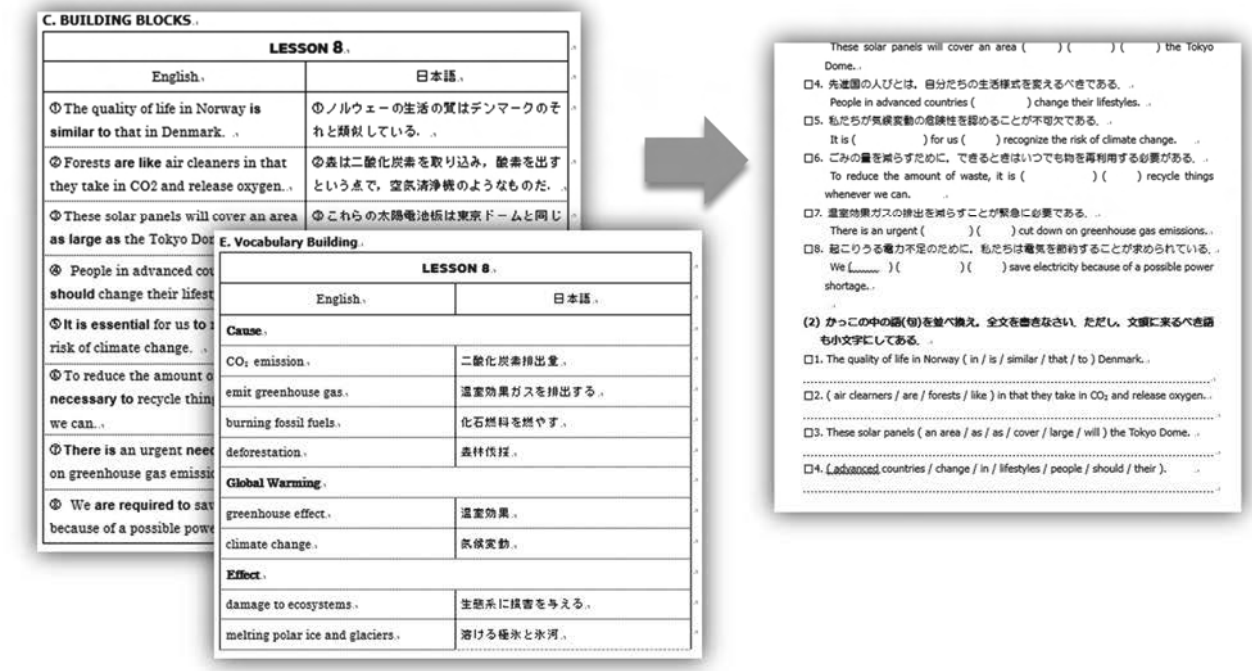
★ Grammar　A：このレッスンで習った文法を正しく使えている。
B：このレッスンで習った文法を使ってはいるが、使い方が間違っている。
C：このレッスンで習った文法を全く使っていない。

提案６：教科書の内容を用いた「インプット、のちアウトプット、ときどき応用」

第２学年の英語表現Ⅱでは、UNICORN 2（文英堂）を使用している。当教科書の構成として、UNIT 2では文法や構文を説明する機会はほとんどない。

【インプット】

各課のトピックに合わせて、対話やスピーチの場面に応じた表現を含むキーセンテンスの暗唱、使用頻度の高いキーフレーズの音読練習をする。インプットを確実にするため、授業では暗唱のための音読や小テストに多くの時間を割く。



C. BUILDING BLOCKS

LESSON 8	
English	日本語
① The quality of life in Norway is similar to that in Denmark.	①ノルウェーの生活の質はデンマークのそれと類似している。
② Forests are like air cleaners in that they take in CO2 and release oxygen.	②森は二酸化炭素を取り込み，酸素を出すという点で，空気清浄機のようなものだ。
③ These solar panels will cover an area as large as the Tokyo Dor	③これらの太陽電池板は東京ドームと同じ
④ People in advanced cou should change their lifest	
⑤ It is essential for us to r risk of climate change.	
⑥ To reduce the amount o necessary to recycle thing we can.	
⑦ There is an urgent need on greenhouse gas emissi	
⑧ We are required to sav because of a possible powe	

E. Vocabulary Building

LESSON 8	
English	日本語
Cause	
CO_2 emission	二酸化炭素排出量
emit greenhouse gas	温室効果ガスを排出する
burning fossil fuels	化石燃料を燃やす
deforestation	森林伐採
Global Warming	
greenhouse effect	温室効果
climate change	気候変動
Effect	
damage to ecosystems	生態系に損害を与える
melting polar ice and glaciers	溶ける極氷と氷河

These solar panels will cover an area ( ) ( ) ( ) the Tokyo Dome.

□4. 先進国の人びとは，自分たちの生活様式を変えるべきである。
People in advanced countries ( ) change their lifestyles.

□5. 私たちが気候変動の危険性を認めることが不可欠である。
It is ( ) for us ( ) recognize the risk of climate change.

□6. ごみの量を減らすために，できるときはいつでも物を再利用する必要がある。
To reduce the amount of waste, it is ( ) ( ) recycle things whenever we can.

□7. 温室効果ガスの排出を減らすことが緊急に必要である。
There is an urgent ( ) ( ) cut down on greenhouse gas emissions.

□8. 起こりうる電力不足のために，私たちは電気を節約することが求められている。
We ( ) ( ) ( ) save electricity because of a possible power shortage.

(2) かっこの中の語(句)を並べ換え，全文を書きなさい。ただし，文頭に来るべき語も小文字にしてある。

□1. The quality of life in Norway (in / is / similar / that / to) Denmark.

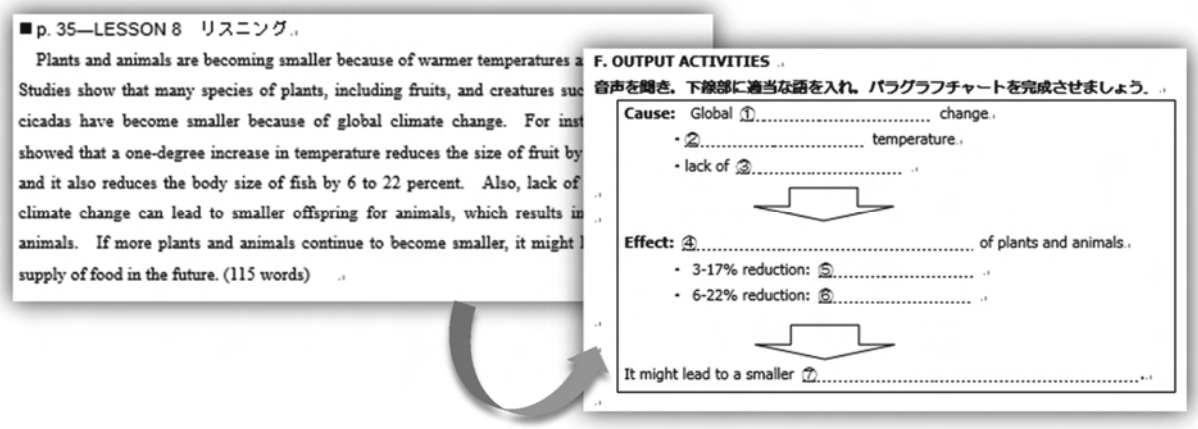
□2. (air clearners / are / forests / like) in that they take in CO_2 and release oxygen.

□3. These solar panels (an area / as / as / cover / large / will) the Tokyo Dome.

□4. (advanced countries / change / in / lifestyles / people / should / their).

【インテイク】

インプットした項目が随所にちりばめられた120 ～ 180語程度の文章を読んだり聞いたりして、その中から必要な情報を抜き出す要約の演習をする。この活動は、我々が母語を用いて日常的に行っていることであり、また、センター試験の対策としても有効である。出版社の提供するハンドアウト集を用いて容易に準備ができる。



■ p. 35—LESSON 8　リスニング

Plants and animals are becoming smaller because of warmer temperatures a
Studies show that many species of plants, including fruits, and creatures suc
cicadas have become smaller because of global climate change. For inst
showed that a one-degree increase in temperature reduces the size of fruit by
and it also reduces the body size of fish by 6 to 22 percent. Also, lack of
climate change can lead to smaller offspring for animals, which results in
animals. If more plants and animals continue to become smaller, it might l
supply of food in the future. (115 words)

F. OUTPUT ACTIVITIES

音声を聞き，下線部に適当な語を入れ，パラグラフチャートを完成させましょう。

Cause: Global ①..... change
- ②..... temperature
- lack of ③.....

Effect: ④..... of plants and animals
- 3-17% reduction: ⑤.....
- 6-22% reduction: ⑥.....

It might lead to a smaller ⑦.....

【アウトプット】

習得した語句や表現を用いて、意見文を書く。第２学年では、ただの感想文にならないよう、各課のトピックに合った社会的問題を論じるように指導している。また、キーセンテンスやキーフレーズは定期考査で重点的に出題する。考査では、教科書の構成と同様に（そして授業の構成と同様に）、文法を問う問題は極めて少ない。また、日本語で答える問題はほぼない。英語で表現することを目的としている。

【アプリケーション】（場合に応じて）

習得した内容を実際の場面で活用する練習としてスキットを行う。例に挙げる課では、教科書本文の場面を再現またはアレンジして、グループで発表した。この活動のポイントは、（１）分量を少な

くすること、（２）普段から、文（章）を感情を込めて、もしくは説明口調で音読する練習をすること、（３）生徒が工夫を加えられる課に限ること（本課は理系の生徒が化学の知識を組み込みやすい）、の３点である。

Professor Smith: Today we're going to look at the problem of water shortages caused by global warming.

Tom: Excuse me, Professor Smith. I have a question. We've learned that the total amount of water on the earth doesn't change. I just wonder why global warming can cause water shortages.

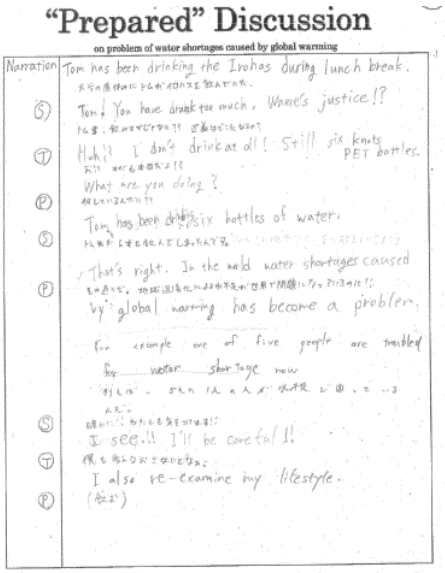
Professor Smith: Good question, Tom. Only about 2% of water on the earth is fresh water. And we need to have fresh water when and where it is necessary for our lives. Do you understand what I mean?

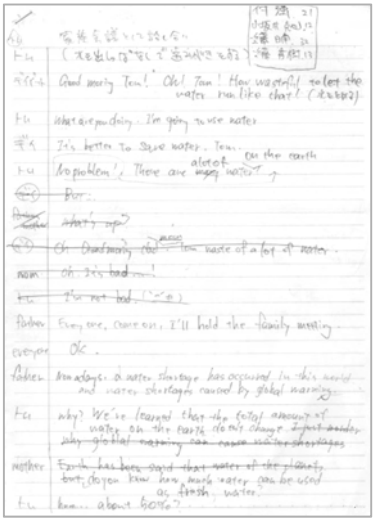
Tom: .... It just hit me! The other day I read that the average amount of snowfall has decreased in some places on the earth. I think that can cause water shortages.

Professor Smith: Correct! I'm impressed. Can anyone explain some functions of snowfall?

Susie: Yes, Professor Smith. It's like a storehouse. In winter, snow builds up in the mountains. In spring, it is released as water that farmers use for growing crops and we use for drinking.

Professor Smith: That's right, Susie. (172 words)





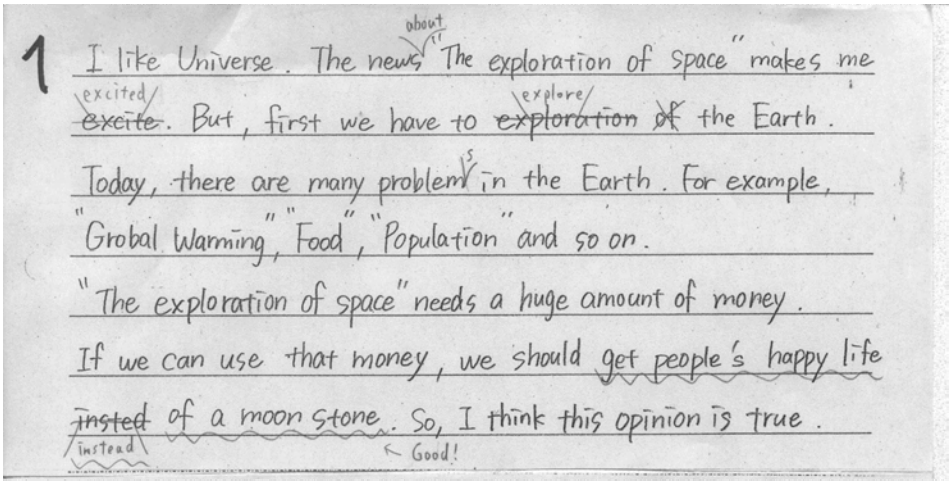
提案７：クラスメイトの作文に興味津々―Peer Review によるリライティングの試み―

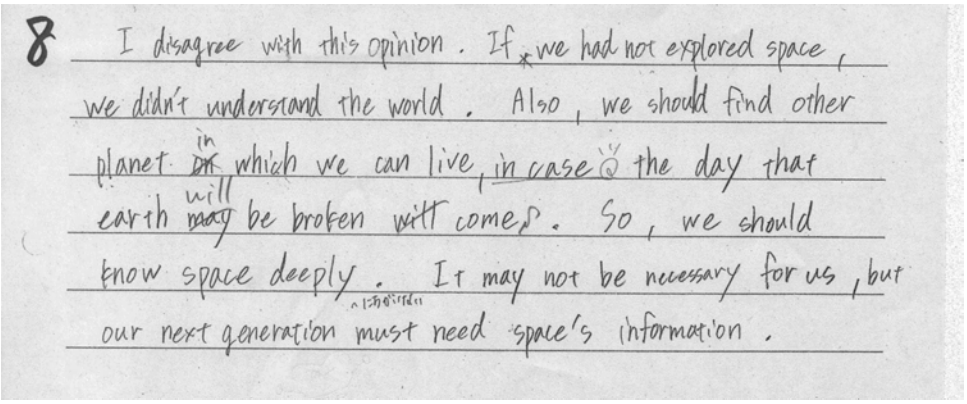
生徒は１年生から継続して、レッスン毎にライティング活動をさせてきたが、とにかく書くこと、自分の意見を伝えることを優先して、ミスに細心の注意を払うことはしてこず、ライティングを提出した後も、誤りを指摘するだけで、書き直しなどのフィードバックを行ってこなかった。その結果、生徒は同じミスを繰り返したり、単純な文のみを使用したりと、大きな成長が見られなかった。

その反省から、３年生から Peer Review の活動を取り入れた。活動内容は、他の生徒が書いたライティングを３人１組のグループで話し合い、文法、語彙、表現の誤りなどがあれば指摘する。また、あら探しの活動にならないよう、誤りだけではなく、良い意見や自分では思いつかなかった表現があればそれも伝えるようにした。そして、そのワークシートを本人に返し、その指摘を自分でさらに吟味し（もちろんそこで指摘されていることが全て正しいわけではないが）、リライティングの活動を行う。

この活動の狙いは大きく３つある。①他の生徒の誤りを見つけることで、自分で同じ誤りを繰り返さないようにする。②グループで話し合う際に､伝えることや教えあうことでその知識を定着させる。③受験勉強で増やした語彙や文法の知識を活用し、それがこの活動で役立っていることを実感する。

● “Exploration of space is a waste of money.” での意見文に対する Peer review


1 I like Universe. The news about "The exploration of space" makes me ~~excite~~ excited. But, first we have to ~~exploration~~ explore ~~of~~ the Earth. Today, there are many problems in the Earth. For example, "Grobal Warming", "Food", "Population" and so on. "The exploration of space" needs a huge amount of money. If we can use that money, we should get people's happy life ~~insted~~ instead of a moon stone. So, I think this opinion is true.
Good!


8 I disagree with this opinion. If we had not explored space, we didn't understand the world. Also, we should find other planet ~~on~~ in which we can live, in case the day that earth ~~may~~ will be broken ~~will~~ come. So, we should know space deeply. It may not be necessary for us, but our next generation must need space's information.

４．まとめ

普段本校において日常的に行われている実践を、僭越ながら提案集としてまとめさせて戴いた。すでに同じような方法論で指導にあたられている学校もおありかも知れない。その意味において、いわゆる理論的な先進性が不足する内容であろう点、ご容赦願いたい。ただ、我々中等教育に携わる者に

は長年にわたる教育の場における経験の蓄積とそこから培われた見識というものがあるはずである。これまでも刻々と変化を続ける対象に柔軟に対応しながら、置かれた状況に最善の方法を模索してきた。今回は「英語表現」について、その様な模索の過程をより多くの先生方と共有し、これからに役立てたいとの思いから、表題のテーマを設定した。今回のテーマに関しては、授業実施者のみならず本校の英語科教員６名全員がアイディアを出し合いながら、全体として事に当たってきたが、日々の教育活動においてもそうすることがいかに重要か痛感している次第である。